

那須岳の火山活動解説資料（令和7年11月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～5、図6－1①②、図6－2、図7－①）

湯本2監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約5km）による観測では、茶臼岳の噴気は認められませんでした。なお、日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約0.8km）による観測では、これまでどおり茶臼岳西側噴気地帯で噴気が認められています。

6日に実施した現地調査では、西斜面（無間地獄）の地熱域の広がりや西斜面の噴気孔Aの温度に前回（2024年7月24日）と比較して大きな変化は認められませんでした。噴気量は2021年4月と比較して低下傾向にあります。北西斜面では噴気及び地熱域は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図6－1③、図7－②、図8）

那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は、主に茶臼岳付近の深さ0km付近に分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図7－③～⑤、図9）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 那須岳 茶臼岳の状況（11月23日、湯本2監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和7年12月分）は令和8年1月13日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

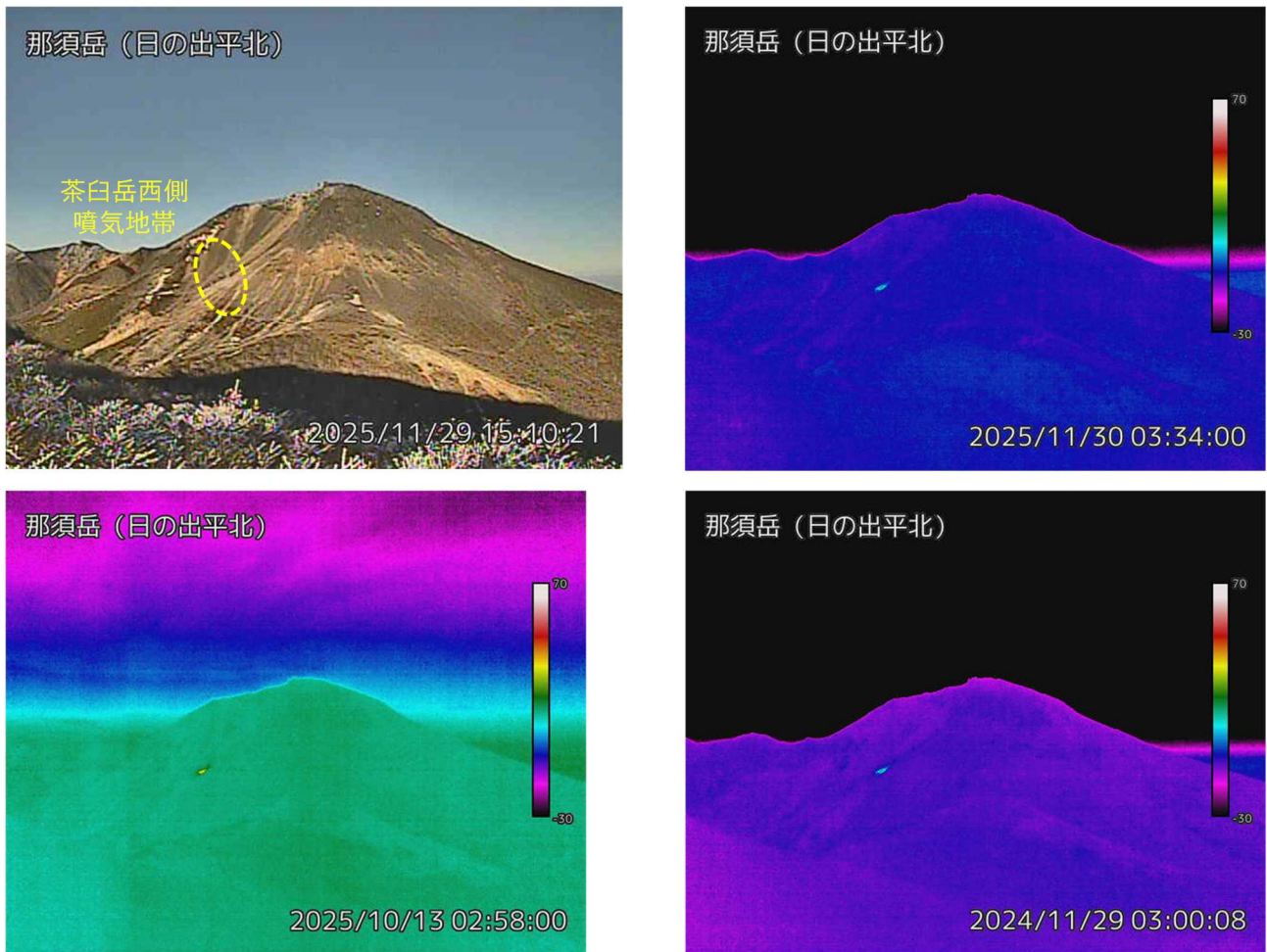


図2 那須岳 茶臼岳の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）

- ・噴気地帯に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
- ・前月（左下図）及び前年（右下図）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められません。

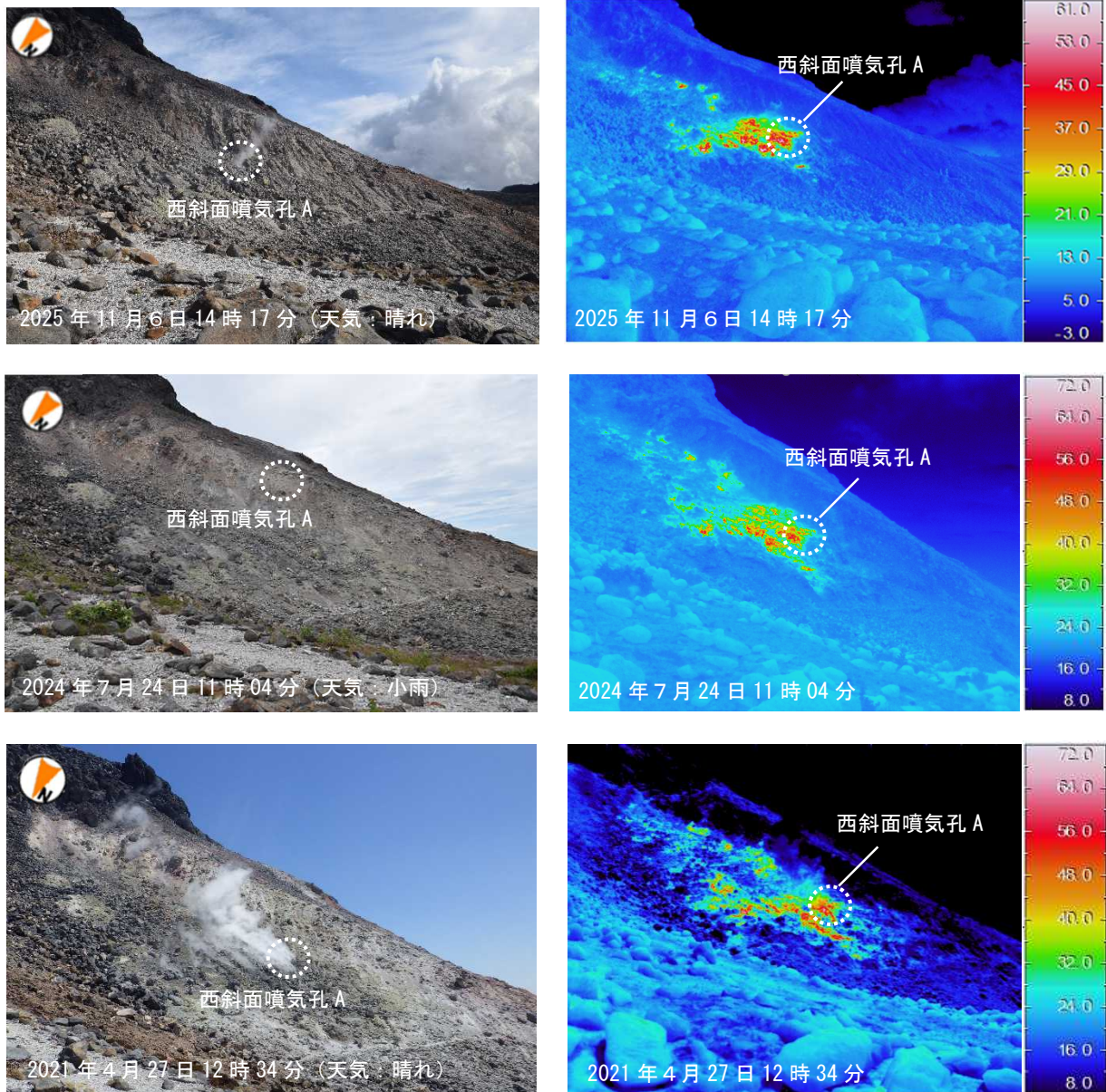


図3 那須岳 現地調査による茶臼岳西斜面無間地獄付近の状況

- ・ 赤外熱映像装置による観測では、前回観測（2024 年 7 月 24 日）と比べ、地熱域の分布に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 噴気量は前回（2024 年 7 月 24 日）よりもやや多く認められましたが、2021 年 4 月と比べると減少していました。

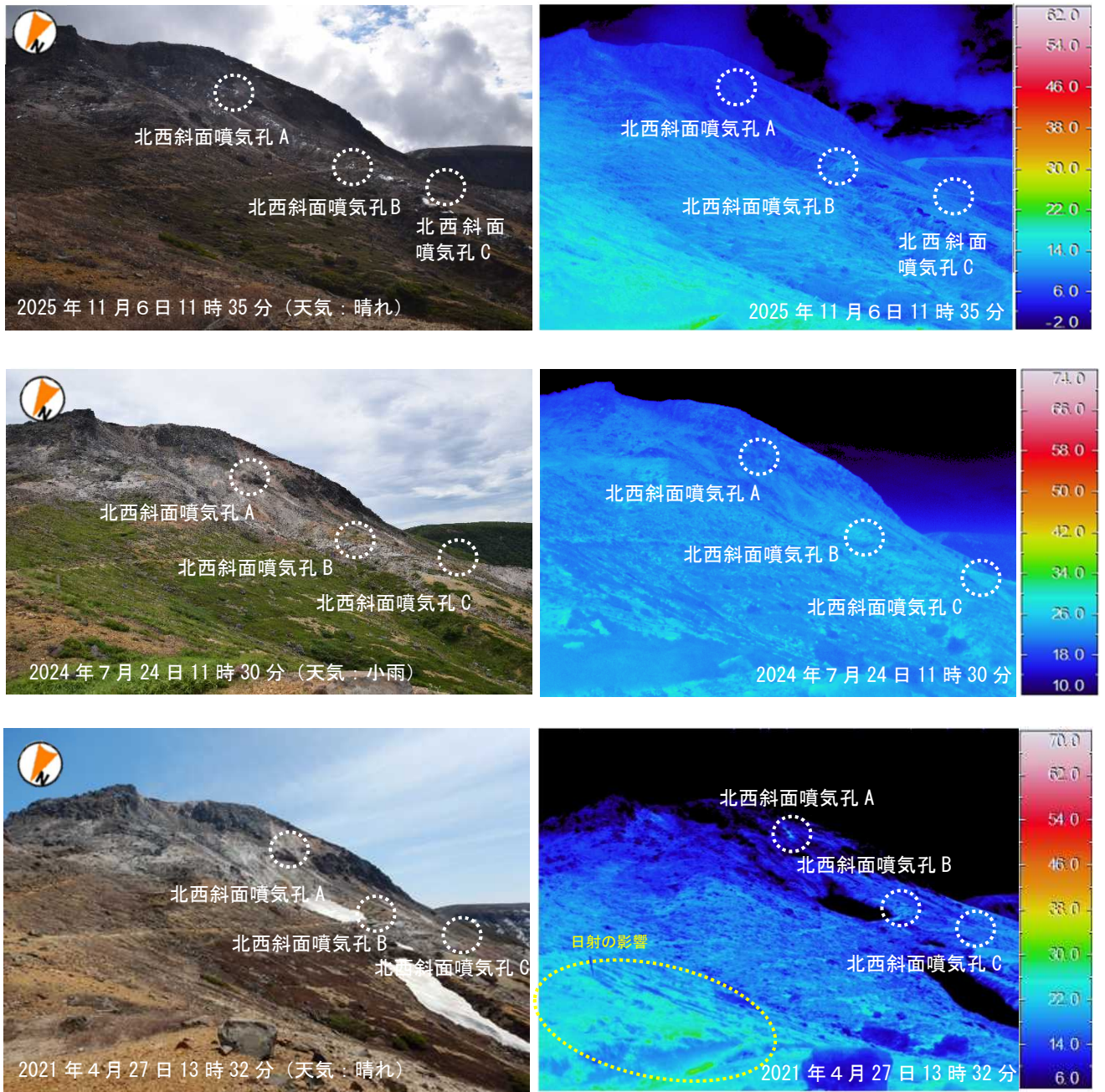


図4 那須岳 現地調査による茶臼岳北西斜面の状況

- ・噴気孔 A, B, C において、2021 年 4 月まで見られていたような噴気や地熱域は認められませんでした。



図5 那須岳 現地調査での撮影位置・撮影方向
（赤丸：撮影位置、→：撮影方向）

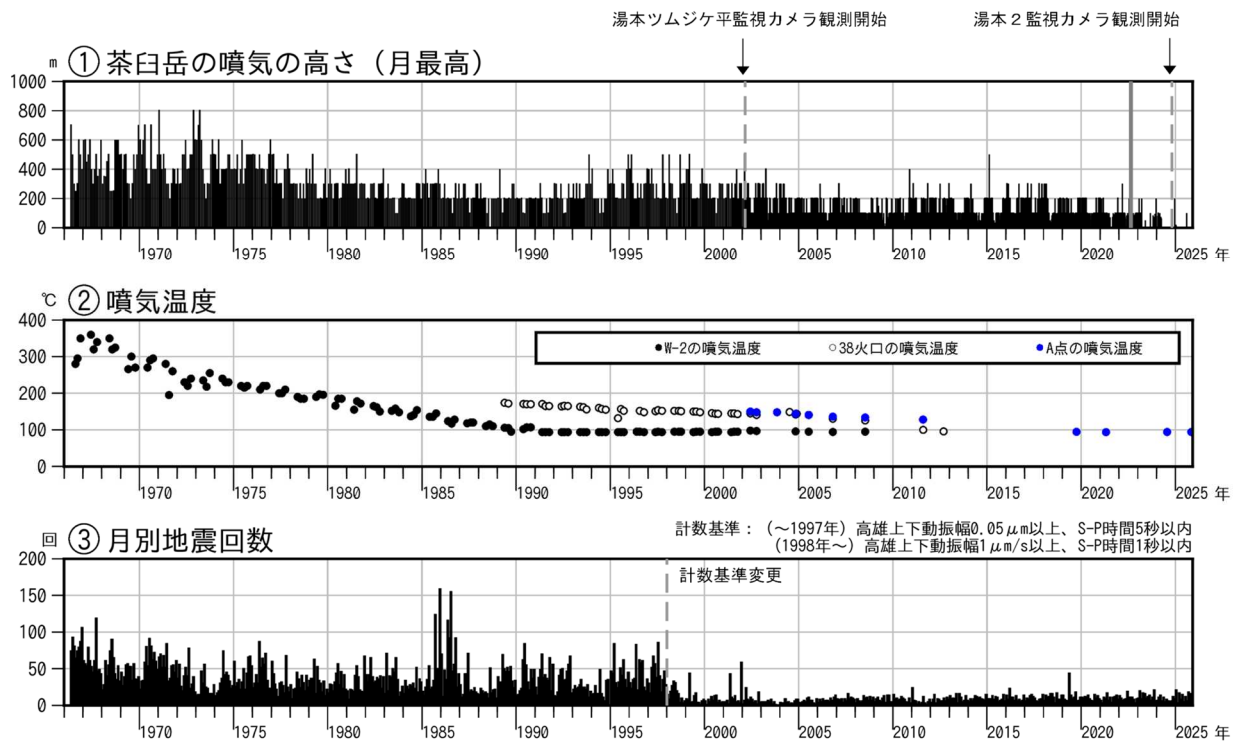


図6-1 那須岳 火山活動経過図（1966年6月～2025年11月）

- ① 2002年2月以前は、定時観測（09時・15時）による月最大値。2002年3月からは湯本ツムジケ平監視カメラ、2024年10月25日以降は湯本2監視カメラによる月最大値。灰色部分は欠測を示します。
 - ② 噴気温度のW-2、38火口及びA点はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点（図6-2）
 - ③ 月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）
- ・ 火山性地震の回数は長期的（概ね2013年以降）にわずかに増加傾向が認められます。一方で、噴気活動は長期的に低下傾向が継続しています。

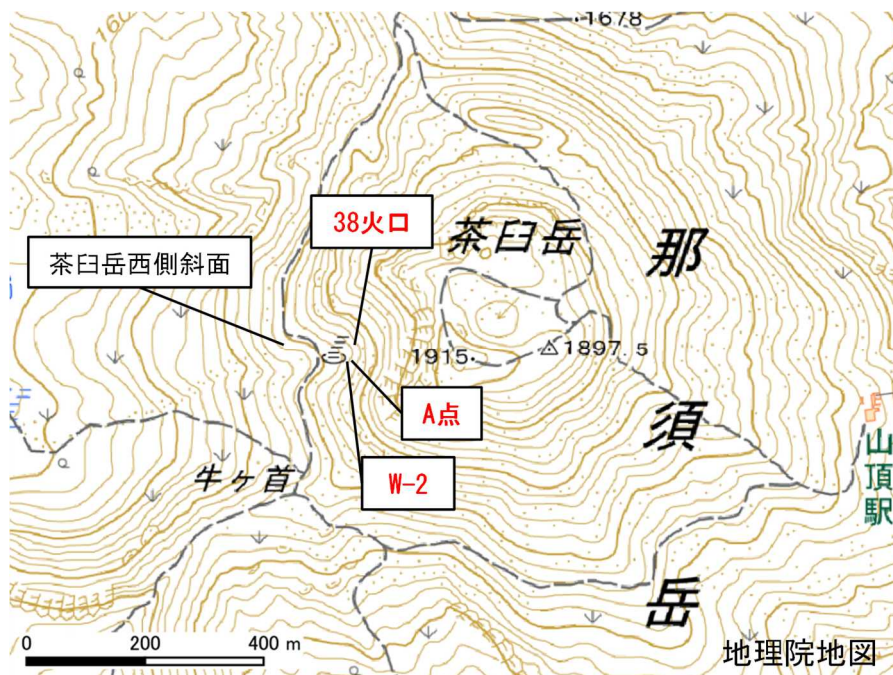


図6-2 那須岳 火口周辺図

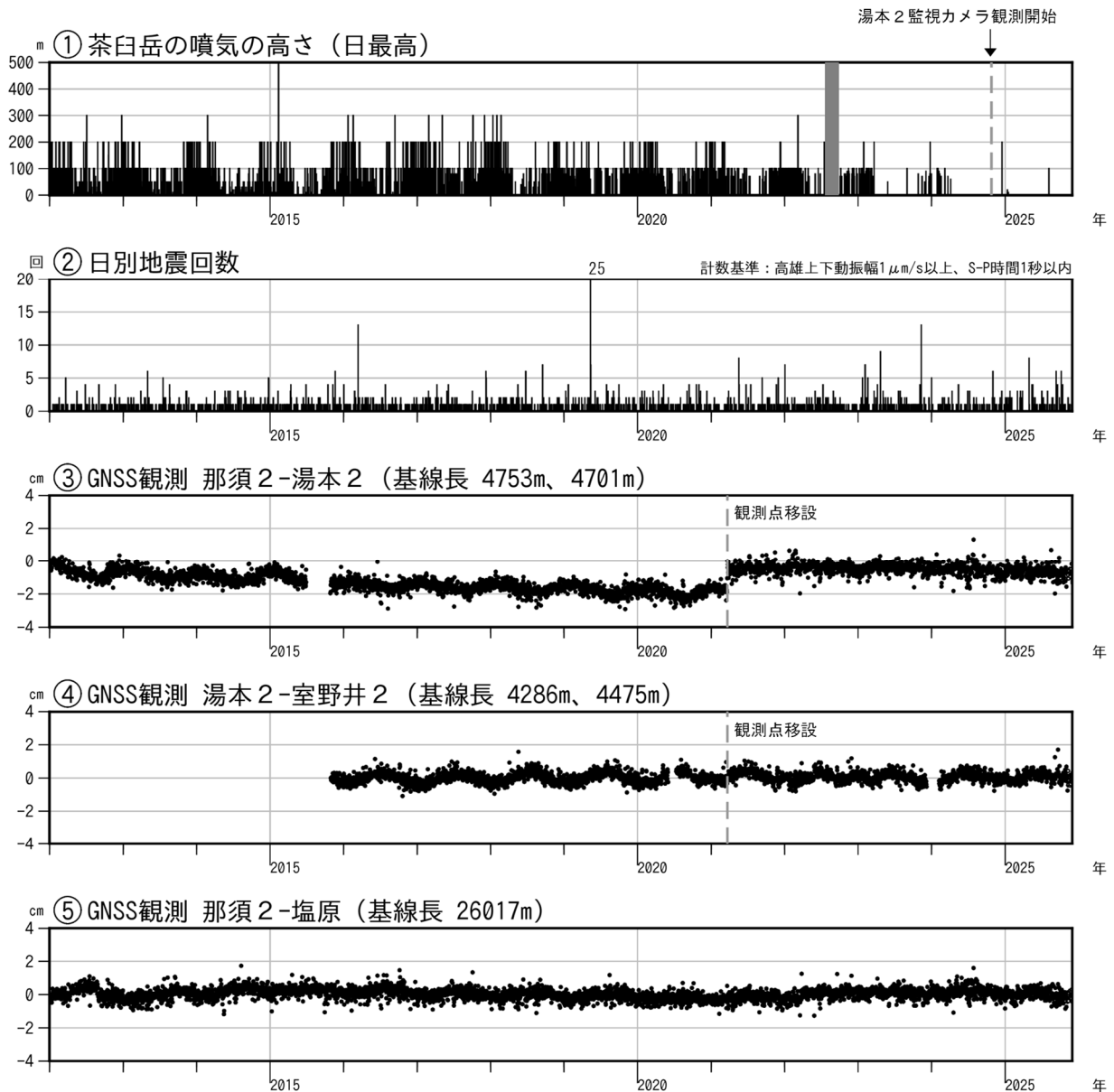


図7 那須岳 火山活動経過図（2012年1月1日～2025年11月30日）

- ① 2024年10月24日までは湯本ツムジケ平監視カメラ、それ以降は湯本2監視カメラによる観測結果を示しています。灰色部分は欠測を示します。
- ③～⑤ GNSS連続観測による基線長変化を示しており、図9のGNSS基線③～⑤に対応しています。空白部分は欠測を示します。2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
2024年1月以降は「令和6年能登半島地震」に伴う変動も含まれています。
- ③④ 湯本2観測点は、2021年3月23日に観測点移設を行いました。
- ③④ 基線長変化にみられる夏季の変化は、気象等の要因と考えられます。
(峠茶屋、沼ッ原の観測点は現在障害中のため、那須2、湯本2、室野井2、塩原でのGNSS連続観測の基線長変化を示しています)

・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

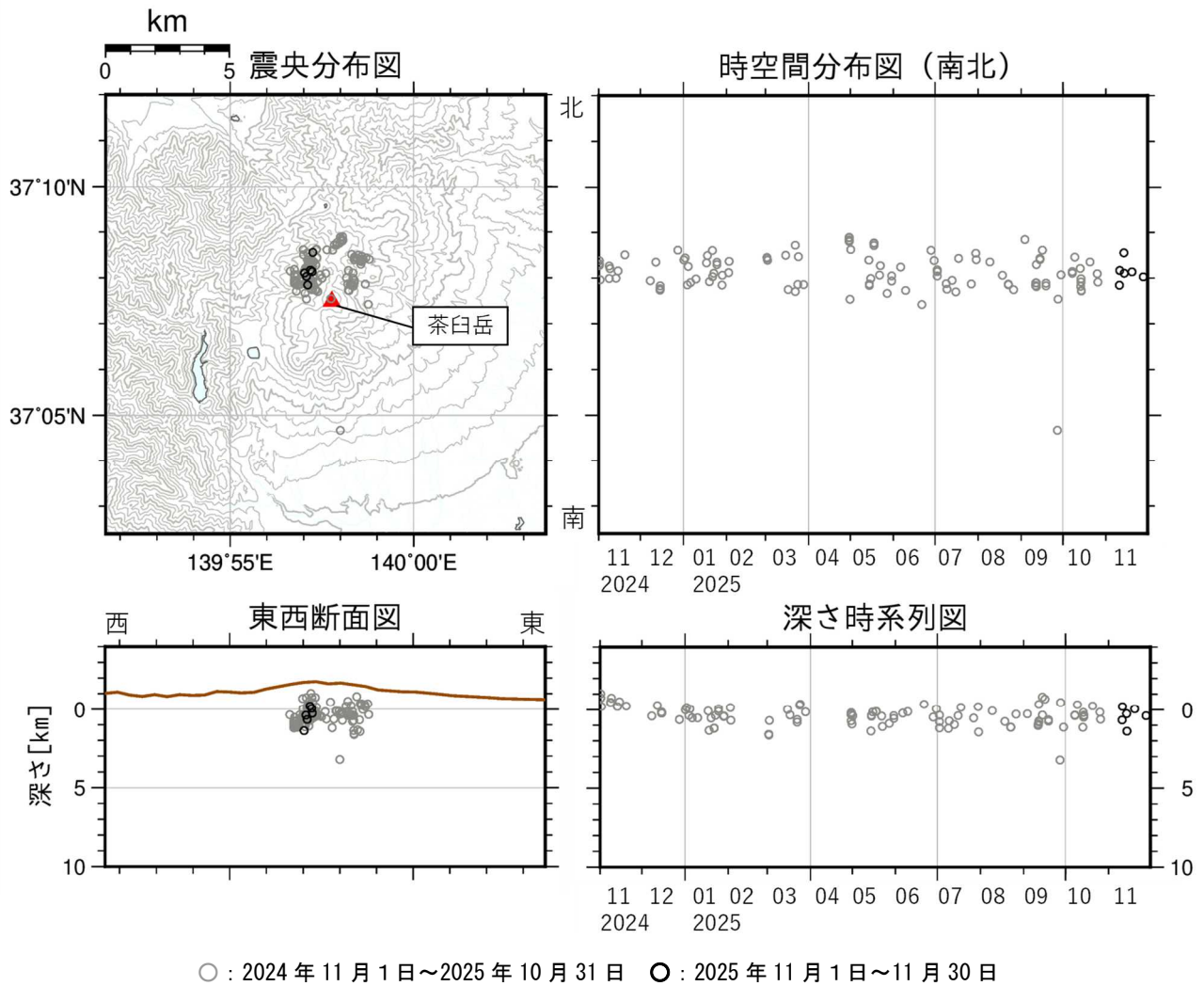


図8 那須岳 震源分布図（2024 年 11 月 1 日～2025 年 11 月 30 日）

- ・ 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
- ・ 震源は、主に茶臼岳付近の深さ 0 km 付近に分布しました。

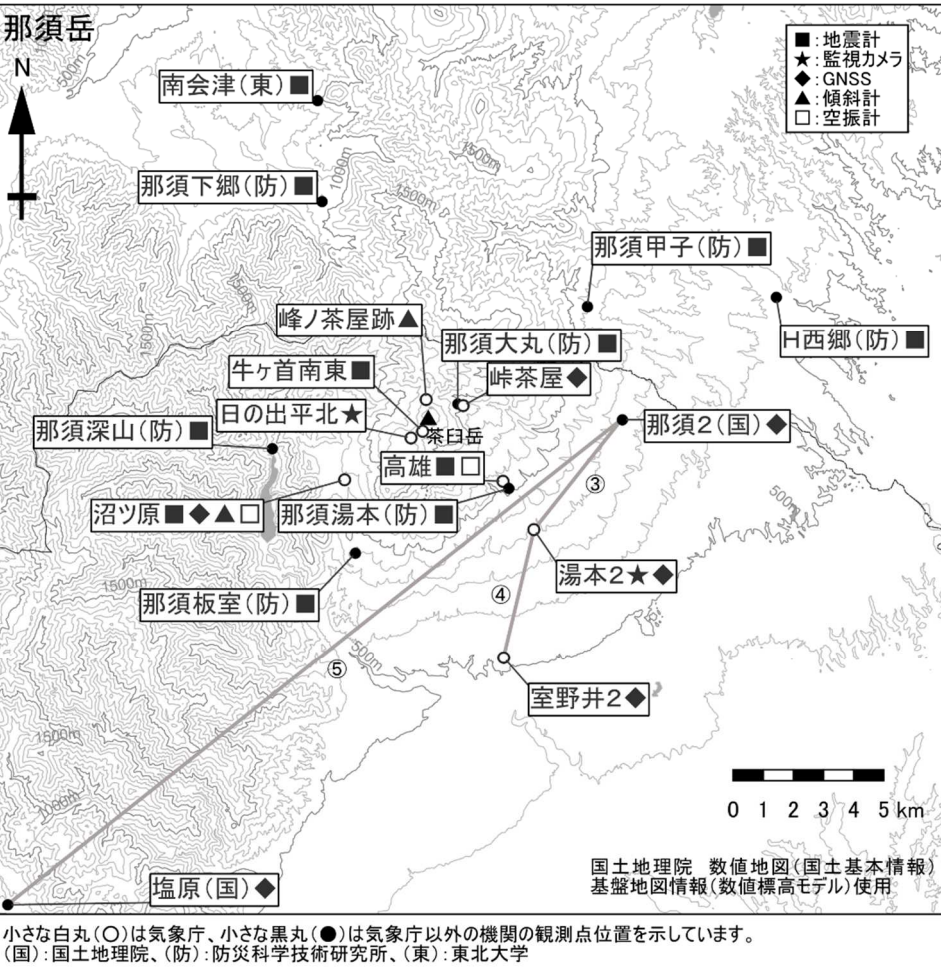


図9 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線③～⑤は図7の③～⑤に対応しています。